令和6年度全国保育士養成セミナー

開 催 案 内

# 岐路に立つ保育士養成

## －近未来の保育と養成校の姿を考える－

一般社団法人　全国保育士養成協議会

令和６年度セミナー　企画委員会　実行委員会

担　当　　関東ブロック
開催日　　令和６年８月29日（木）・30日（金）
会　場　　幕張メッセ国際会議場（全対面開催）

# 令和６年度全国保育士養成セミナー日程表

## 主題　岐路に立つ保育士養成―近未来の保育と養成校の姿を考える

### ○令和６年８月29日（木）

| 11:00 | 12:00 | 12:30 | 13：30 | 13：45 | 14：55 | 15：10 | 17：10 | 17：30 | 19：00 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 受　付 | 開会式 | **行政説明** | 休憩<br>15分 | **基調講演**<br>［演題］<br>「私たちのつくる社会と保育の果たす役割について－官民での経験を通じて」<br>［講師］伊藤貴紀氏<br>（株式会社かえで） | 休憩<br>15分 | **シンポジウム**<br>テーマ「「私」「仕事」「世の中」のつながりで考える保育士養成～コレクティブ・インパクトの視点から～」<br>シンポジスト：<br>松本理寿輝氏（ナチュラルスマイルジャパン株式会社代表取締役）<br>伊藤貴紀氏（株式会社かえで　経営企画部長）<br>久保健太氏（大妻女子大学　専任講師）<br>司会/コーディネーター：<br>岡　健氏（大妻女子大学　教授） | 移動<br>・<br>休憩<br>20分 | **情報交換会**<br>〈2階　国際会議室〉<br>**分科会打ち合わせ**<br>**（実行委員のみ）**<br>〈2階　201室〉 | |

### ○令和６年８月30日（金）

| 9：00 | 9:30 | 12:00 | 13:30 | 14：30 | 14：45 | 15：45 | 16:00 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 受　付 | **分科会**<br>①　「子育て支援」～心理、保育、福祉を総合した学び<br>②　保育内容「表現」の指導法の再考～感性の育成を目指す<br>③　「子どもの食と栄養」～保育所の食育の実際と養成教育<br>④　実習訪問を通じた学生の成長支援～現場とともに保育士を育てる<br>⑤　保育職の魅力を伝える～表現を通じたキャリア形成<br>⑥　多様な学生への支援～インクルーシブな社会像を見据えて<br>⑦　インクルーシブ保育～人・社会の多様性を保障する保育士<br>⑧　保育現場における危機管理～子どもの権利と地域社会を守る<br>⑨　保育所保育におけるICT化～情報化によるコミュニケーションの可能性<br>⑩　保育士の階層化・高度化～養成校の将来像<br>⑪　オンライン授業と保育士養成～ICTを活用した授業<br>⑫　養成校教職員の質向上～授業改善等のFD、研修・研究の保障 | 移動<br>・<br>休憩 | **ブロック研究助成報告**<br>**学術研究助成の成果報告** | 移動<br>・<br>休憩 | **中央研究報告**<br>**中央情勢報告** | 閉会式 |

# 目　　次

令和６年度全国保育士養成セミナーのご案内 …… 3
会場案内図 …… 4
開 催 要 項 …… 5
・セミナープログラム　1日目 …… 7
　　行政説明 …… 8
　　基調講演 …… 9
　　シンポジウム …… 10
　　情報交換会のご案内 …… 12
・セミナープログラム　2日目 …… 13
　　分科会一覧 …… 15
　　分科会趣旨 …… 17
　　中央研究報告・中央情勢報告 …… 29
セミナー　参加申込のご案内 …… 30
宿泊プランのご案内 …… 32
運営組織 …… 37

※この案内に記載されている所属・職名等は、令和 6 年 3 月 31 日現在のものです。

全国保育士養成協議会会員　各位

一般社団法人全国保育士養成協議会
令和６年度セミナー
運営組織委員長　　汐　見　稔　幸
大会長　　植　草　和　典
実行委員長　　西　山　　薫

# 令和６年度全国保育士養成セミナーのご案内

## Ⅰ　開催テーマ　「岐路に立つ保育士養成－近未来の保育と養成校の姿を考える」

今日の保育士養成校が向き合わなくてはならない課題の１つに「出口」問題、すなわち近未来の保育士に必要な資質・能力をどう育てるかという「保育士の質保証」がある。そして「入口」問題、すなわち「学生の質と量」をいかに確保するかという「持続可能な保育士養成」の課題がある。この２つの課題にどう向き合うか、今日の保育士養成は、大きな＜岐路＞に立っていると考える。

「保育士の質保証」は、保育現場で求められる「保育士の資質・能力」の基礎を確保するという点では普遍的な課題である。しかし、待機児童対策から「質の高い保育」への転換期にある現在、「質保証」すべき資質・能力とは、従来の保育士の職務に対応したものだけでなく、「これからの社会に必要な保育＝近未来の保育のすがた」から導きだされる資質・能力でもある。例えば、「非認知能力（社会情動的スキル）」を育て「生きる力」の基礎を培う役割、児童虐待や貧困等の「命の危機」から子どもや保護者を守る役割、「コレクティブインパクト」として社会の課題解決や地域社会を支える役割、さらには、働き方改革を進め ICT 等の積極的な利活用で「新しい保育の日常」をつくる役割などが、「近未来の保育のすがた」として想定される。保育士養成校は、こうした＜近未来＞の期待にどう応えうるのか、保育士資格の階層化や高度化等の課題とともに、保育士養成の将来像を描くことが求められている。

一方、保育士養成校は、学生の質と量の確保という現実的で厳しい課題に直面している。この課題には、養成校それぞれの「生き残り策」に委ねるだけでなく、「近未来の保育のすがた」に向き合い、期待される保育士を輩出することで課題を好循環に導くという、養成校全体や本協議会で真正面から取組むことが求められる。学生たちが保育の仕事に魅力ややりがいを実感し、「近未来の保育のすがた」に期待して保育現場に向かう養成教育でなければならないし、そのためにもステークホルダー（保育士志望者、保護者や高校関係者など）から、マイナスイメージ（処遇や職場環境の改善、不適切な保育の根絶等）の払拭だけでなく、「近未来の保育のすがた」への共感と納得を得ることが大切である。保育士養成校は、「近未来の保育のすがた」に向けて、養成教育をどう実践し、広く社会に発信していくのか、その岐路に立っている。

令和６年度の全国保育士養成セミナーは、以上の問題意識のもと、保育士養成の今後のありかたを考えたい。「基調講演」と「シンポジウム」では、保育現場を担う若手経営者（伊藤貴紀氏、松本理寿輝氏）をお迎えし、近未来の保育と保育士養成の課題を提起していただく。分科会でも、保育士養成を取り巻く諸課題をリアルに共有し討議したい。

本当に久しぶりの＜完全対面＞での全国セミナーとなります。新たな企画として「情報交換会」も設けました。関東ブロック一同、大勢の皆様のご参加、ご来場をお待ちしております。

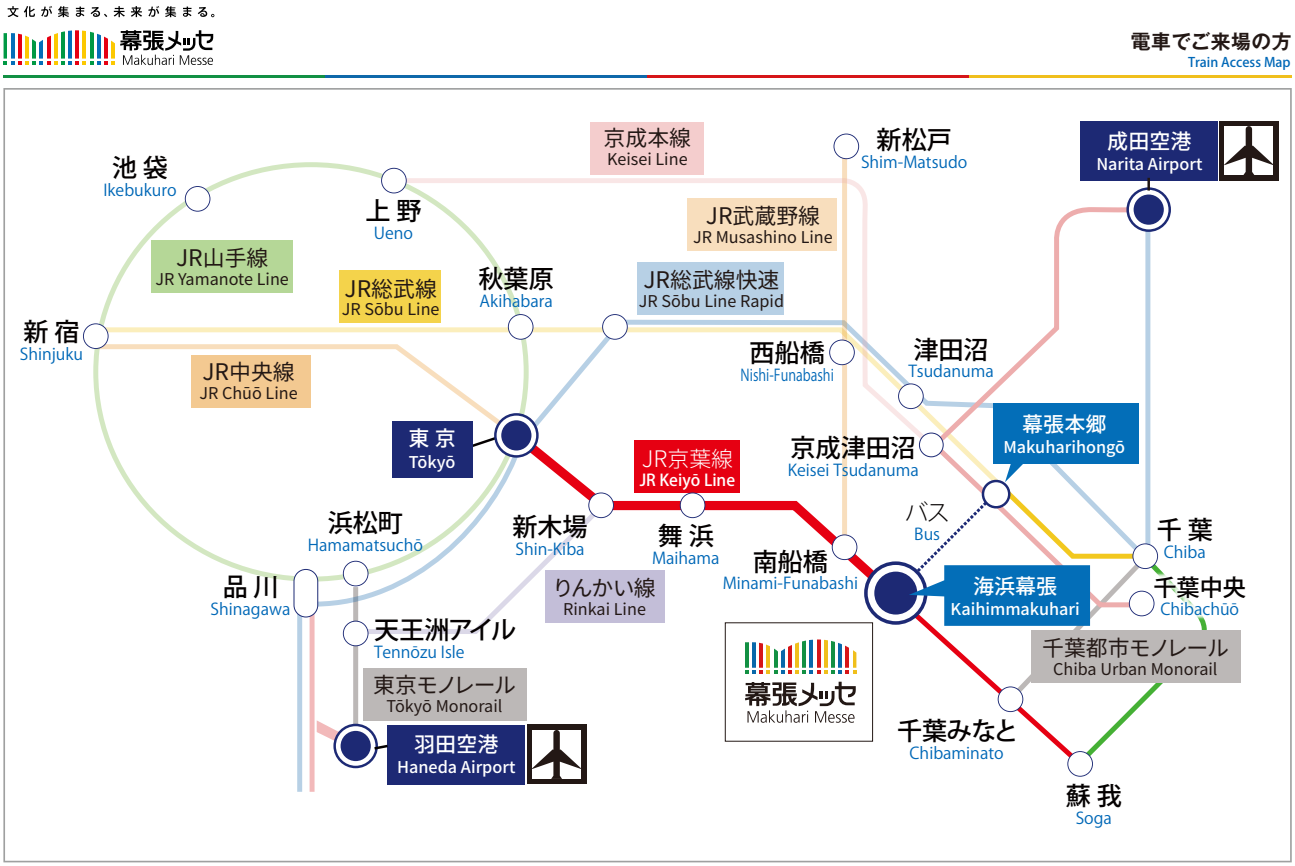
Ⅱ　主　催　　一般社団法人　全国保育士養成協議会

後　援
（予定）　こども家庭庁　千葉県　千葉市
社会福祉法人全国社会福祉協議会　　社会福祉法人日本保育協会
公益社団法人私立保育園連盟　等

Ⅲ　期　日　　令和６年８月 29 日（木）～８月 30 日（金）

Ⅳ　会　場　　幕張メッセ国際会議場
〒 261-8550　千葉県千葉市美浜区中瀬２－１

Ⅴ　会場までの案内図




最寄り駅　JR 京葉線「海浜幕張」駅下車　徒歩５分

東京駅から：JR 京葉線（快速）約 30 分
横 浜 か ら：JR 東海道本線（約 26 分）東京駅にて JR 京葉線乗換え
羽 田 か ら：・東京モノレール（約 10 分～ 16 分）天王洲アイル駅　りんかい線（約 12 分）
新木場駅にて JR 京葉線（快速）約 22 分
・高速バス（約 40 分）「幕張メッセ中央」下車

令和６年度全国保育士養成セミナー

# 開　催　要　項

**１．主　題**　岐路に立つ保育士養成－近未来の保育と養成校の姿を考える

**２．主　催**　一般社団法人　全国保育士養成協議会

**後　援**　こども家庭庁、千葉県、千葉市、社会福祉法人全国社会福祉協議会

（予　定）　社会福祉法人日本保育協会、公益社団法人私立保育園連盟　等

**３．期　日**　令和６年８月29日（木）、30日（金）

**４．会　場**　幕張メッセ国際会議場（〒261-8550　千葉県千葉市美浜区中瀬２－１）

**５．日　程**　**【全対面開催】**

| 日程 | 時間 | プログラム |
|---|---|---|
| 8月29日（木） | 11：00～12：00 | 受付 |
| | 12：00～12：30 | 開会式 |
| | 12：30～13：30 | 行政説明 |
| | 13：45～14：55 | 基調講演 |
| | 15：10～17：10 | シンポジウム |
| | 17：30～19：00 | 情報交換会 |
| 8月30日（金） | 9：00～ 9：30 | 受　付 |
| | 9：30～12：00 | 分科会 |
| | 13：30～14：30 | ブロック研究助成報告・学術研究助成の成果報告 |
| | 14：45～15：45 | 中央研究報告・中央情勢報告 |
| | 15：45～16：00 | 閉会式 |

**６．内　容**

**（１）講　演**　8月29日（木）

講　演　行政説明　12：30～13：30

演　題　「保育行政の動向と課題」（仮題）

講　師　こども家庭庁　成育局　成育基盤企画課（予定）

基調講演　13：45～14：55

演　題　「私たちのつくる社会と保育の果たす役割について－官民での経験を通じて」

講　師　株式会社かえで　経営企画部長　伊藤　貴紀　氏

**（２）シンポジウム**　8月29日（木）　15：10～17：10

テーマ　「「私」「仕事」「世の中」のつながりで考える保育士育成
～コレクティブ・インパクトの視点から～」

シンポジスト　松本　理寿輝　氏（ナチュラルスマイルジャパン株式会社　代表取締役）
伊藤　貴紀　氏（株式会社かえで　経営企画部長）
久保　健太　氏（大妻女子大学）

司　会　岡　健　氏（大妻女子大学）

**（３）分科会**　8月30日（金）　9：30～12：00

**（４）研究報告・中央情勢報告**

ブロック研究助成報告・学術研究助成の成果報告　8月30日（金）　13：30～14：30

中央研究報告・中央情勢報告　8月30日（金）　14：45～15：45

## 7．参加申し込み方法　　本書 p.30 を参照

| | 申し込み期間 | 摘要 |
|---|---|---|
| セミナー | 令和６年５月９日（木）～<br>令和６年　７月 26 日（金） | 全国保育士養成協議会　宛 |

## 8．参加費など（情報交換会費は無料）

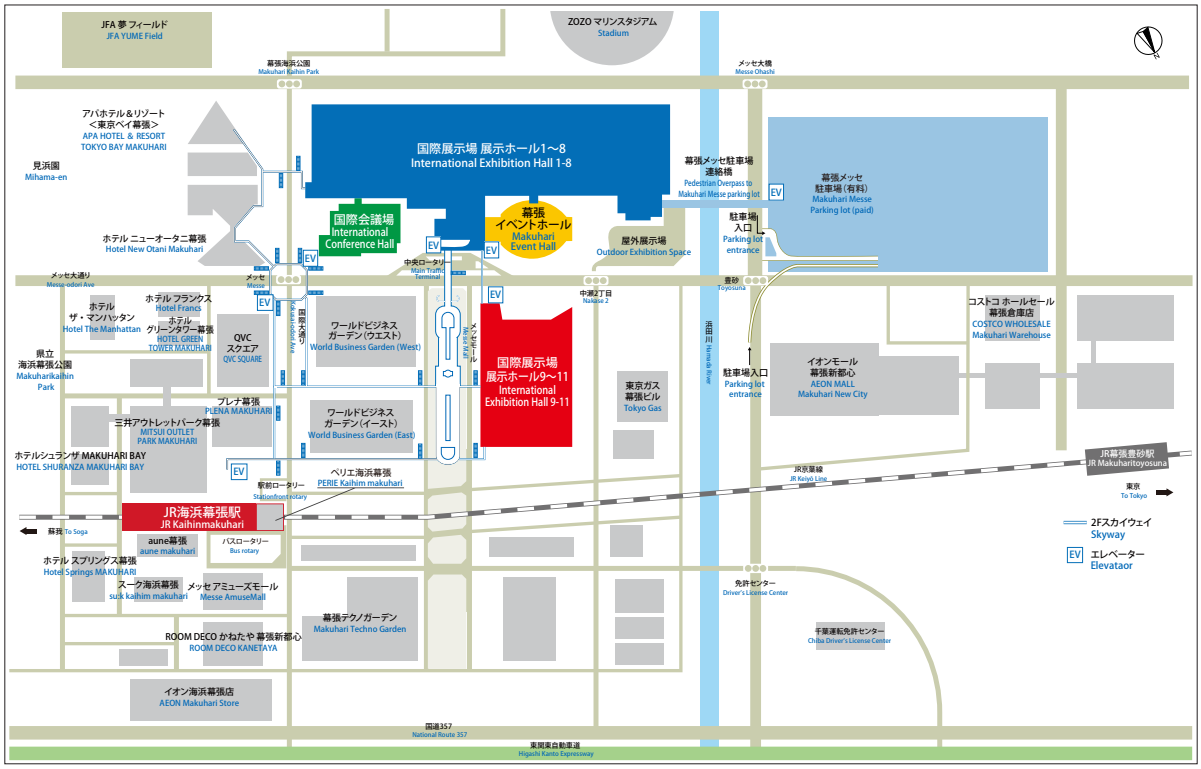
| 対象区分 | 参加費（一人当たり） |
|---|---|
| ①保育士養成校等教職員 | １０，０００円<br>（税抜 9,091 円 消費税 10% 909 円） |
| ②児童福祉施設職員等<br>（認定こども園職員・幼稚園教諭・行政職員を含む） | ３，０００円<br>（税抜 2,728 円 消費税 10% 272 円） |
| ③学生・院生 | １，５００円<br>（税抜 1,364 円 消費税 10% 136 円） |
| ④その他（①、②、③以外） | １０，０００円<br>（税抜 9,091 円 消費税 10% 909 円） |

## 9．参加費などの振り込みについて

本書 p.30 を参照。　申し込み期限：令和６年７月 26 日（金）　厳守願います。

## 10．宿泊について

本書 p.32 を参照。　名鉄観光サービス株式会社千葉支店　斡旋



## セミナープログラム　１日目

| 令和６年８月29日（木）　12：00～19：00 | | ページ |
|---|---|---|
| 12:00～12:30 | **開会式** | － |
| 12:30～13:30 | **行政説明**<br>演　題　保育行政の動向と課題<br>講　師　こども家庭庁成育局 | 8 |
| 13:30～13:45 | **休　憩** | － |
| 13:45～14:55 | **基調講演**<br>演　題　私たちのつくる社会と保育の果たす役割について－官民での経験を通じて<br>講　師　伊藤　貴紀　氏（株式会社かえで　経営企画部長） | 9 |
| 14:55～15:10 | **休　憩** | － |
| 15:10～17:10 | **シンポジウム**<br>テーマ　「私」「仕事」「世の中」のつながりで考える保育士育成<br>～コレクティブ・インパクトの視点から～<br>シンポジスト<br>松本　理寿輝　氏（ナチュラルスマイルジャパン株式会社　代表取締役）<br>伊藤　貴紀　氏（株式会社かえで　経営企画部長）<br>久保　健太　氏（大妻女子大学　専任講師）<br>司会／コーディネーター<br>岡　健　氏（大妻女子大学　教授） | 10 |
| 17:10～17:30 | **移動・休憩** | － |
| 17:30～19:00 | **情報交換会**　※事前申し込み不要・無料です。 | 12 |

# 講　演〔行政説明〕

**演　題**　　**保育行政の動向と課題**

**講　師**　　こども家庭庁成育局　成育基盤企画課（予定）

# 基　調　講　演

## 演　題　「私たちのつくる社会と保育の果たす役割について －官民での経験を通じて－」

## 講　師　伊藤　貴紀　氏（株式会社かえで　経営企画部長）

## 要　旨

子育てをめぐる課題は、家族形態や社会の様相によって変化し、それに対する解決策も変わってきている。その中で保育園や保育士、養成校の果たす役割も時代によって変化し、新たな役割を求められるようにもなってきている。

社会課題は子育てや家族にまつわるものに限らず、社会全般に存在し、その複雑性が増す中で、社会システム自体の変更の必要性が叫ばれるようになってきている。

私たちはひとりひとりが集まってこの社会を形成しているということを改めて捉えなおす中で、社会変革のための方法論も、行政や企業を中心としたトップダウンに近いアプローチから、よりボトムアップに近く多様な主体を巻き込むようなアプローチが模索されている。

具体的には、市民の力や、ローカルな活動、多様な主体の連携などが注目され、一人一人の意思や意欲を大切に、出来ることを持ち寄り、実際に形にしていくことが重視されている。そのようなことが求められる時代においては、保育に対して求められることも変わってくる可能性がある。
他方で、保育の現場で大切にされている価値として、一人一人に寄り添い、一人一人の持つ力を引き出すこと、それぞれの意見を大切にしながら物事を進めることなど、市民社会や民主主義に必要な価値を大切にされている側面があり、引き続きそういった価値をどのように大切にできるかという観点も必要となると思われる。

これから私たちはどのような社会をつくっていきたいのか、そして、次の時代を担う子どもたちにどのような社会を残し、子どもたちにどのような願いを託していくのか。そして、子どもたちが多くの時間を過ごす保育園や、子どもたちに最も近い存在ともいえる保育士はどのような姿であるべきか。

これからの社会の在り方、社会の中の保育園、保育士の果たす役割について、考えたい。

## プロフィール

2014 年東京大学経済学部を卒業、経済産業省に入省。APEC を経験後、省内横断的に将来の日本社会のあり方を検討する次官若手プロジェクトに参加し、「不安な個人、立ちすくむ国家」と題したレポートを公開。社会保障や教育、官民連携の大きな方向性や可能性を取りまとめた。70 年ぶりの JIS 法の改正にて法律・政令・省令の改正に携わったのち、2018 年には排せつ予測デバイス DFree を手がけるベンチャー企業、トリプル・ダブリュー・ジャパンに出向。2019 年より、経済産業省製造産業局にてドローンや空飛ぶクルマといった新たな産業創出を担当し、次世代空モビリティ政策室の初代室長補佐として 2022 年 3 月まで担当。2023 年 4 月より、家業の保育園経営に従事するとともに、ひとり親支援事業等の立ち上げに携わる。

# シンポジウム

## 「私」「仕事」「世の中」のつながりで考える保育士養成

### ～コレクティブ・インパクトの視点から～

シンポジスト　伊藤　貴紀　氏（株式会社かえで）
松本　理寿樹　氏（ナチュラルスマイルジャパン株式会社）
久保　健太　氏（大妻女子大学）

指定討論者

コーディネーター　岡　健　氏（大妻女子大学）

趣　旨（岡　健）

大会テーマの主旨説明に次のようにある。

*保育士養成校は、学生の質と量の確保という現実的で厳しい課題に直面している。この課題には、養成校それぞれの「生き残り策」に委ねるだけでなく、「近未来の保育のすがた」に向き合い、期待される保育士を輩出することで課題を好循環に導くという、養成校全体や本協議会で真正面から取組むことが求められる。学生たちが保育の仕事に魅力ややりがいを実感し、「近未来の保育のすがた」に期待して保育現場に向かう養成教育でなければならないし、そのためにもステークホルダー（保育士志望者、保護者や高校関係者など）から、マイナスイメージ（処遇や職場環境の改善、不適切な保育の根絶等）の払拭だけでなく、「近未来の保育のすがた」への共感と納得を得ることが大切である。*

井上英之（2019）は、インパクト・アプローチを論じる上で、「世の中」を変えるために「仕事」は存在し、ただ同時に、「私」にとって「仕事」の先にある目的がみえやすく、その意味で、なぜ「私」がここにいるのか（「私」と「仕事」と「世の中」が一本の線でつながっていること）の理解を深めることの重要性を指摘した。

ところで、保育士不足と保育士養成校への志願者減少問題。変な例えだが、これは農業を巡る状況に似てはいないだろうか。担い手の高齢化問題（⇒従事者不足）。そして、魅力が感じられず、経営的にも厳しい状況が続く中で若者が離れていく問題（⇒志願者減少問題）、というように。

ただ、そうだとすれば「食」を巡る問題は持続可能な「私たち」の未来を考える基幹問題だとして、例えば「循環型農業」やスマート農業等の新たな農業の模索や、それに取り組もうとする優秀な若者の参画が始まっている。

改めて述べるまでもなく、「人を育み・育まれること」は、持続可能な未来を考える「私たち」の基幹問題に他ならない。当日は、コレクティブ・インパクトを視点に、この関心の先駆的当事者の３名の方と議論を深めたいと思っている。

◇提議１：よりよい社会をつくっていくには（伊藤　貴紀）

少子高齢化、地球温暖化、貧困・格差、地域の衰退など、これまでつくりあげたシステムの限界や課題が認識されている中、それらの課題を解決し、新たな仕組みをつくっていかなければ、今の社会は立ちい

かなくなっている。

よりよい社会をつくっていくには、それぞれの分野、領域において、新たな問をたて、知恵を生み出し、統合していくことが求められ、私たち一人ひとりが創造性を発揮するとともに、多くの人が創造的に考え、動くことができるような支援や教育が重要となる。

他方でこうした社会的要請のみならず、一人ひとりが社会と積極的に関わり、新たな知恵や仕組みを工夫してつくり、どんな人も創造的に暮らしている社会は、手ざわりがあり、活力のあるワクワクできる社会といえるのではないだろうか。

こうした社会を目指し、未来を担う子どもたちを育てることを考えると、前向きにやってみようと思う気持ちや意欲を育むことが重要だと改めて認識するとともに、私たちが日々の暮らしや社会を自分事として面白がりながら関わり、子どもたちと過ごすことも大切だと思える。当日は身近なところから私たちは何ができるのか考えたい。

### 提議２：保育をひらく「コミュニティコーディネーターの視点」（松本　理寿樹）

「保育は、一人ひとりのウェルビーイングのためにありながら、コミュニティや社会の今と未来をつくるための営みである」ことを私たちは改めて認識する必要がありそうだ。そもそも「よい保育とは」を考えるとき、関わりや環境など実践的な観点、公共システムとして実証（エビデンス）に基づく観点、そして、私たちはどのような「子ども観」を選択し、何が子どもの育ち・学びにとってよいと、どう判断するのかといった政治的・哲学的な観点等から、多面的に探っていく必要がある。保育の営みは、社会や民主主義と密接に繋がっており、急変化の時代では尚更、いかに社会の文脈の中で、共創的に保育を考えていくかが重要になる。社会共創を、実践的に試みているのが、まちの保育園・こども園が置くコミュニティコーディネーターであり、その役割や視点を探っていくことによって、これからの保育士のあり方や専門性を改めて見つめ直す。それは、単に、専門性や仕事を付加するのではなく、多様な専門性や視点を持つ「チームとしての保育集団」を探究することでもあると考えている。

### 提議３：自分の声で、世界を変えることはできる。（久保　健太）

「自分の声で、世界を変えることはできる」という感覚。政治学では、それを政治的有効性感覚と呼ぶ。保育の場では、（大人が決めたことを押しつけるよりも）子どもと大人が一緒になって、決め事をつくっていく場面も多い。そこで育つのが政治的有効性感覚だ。

そのような場面では、意見の「重なるところ」と「重ならないところ」を確かめていく作業も欠かせない。様々な違いや多様性が、そこには現われる。もちろん、意見は徐々に輪郭を帯びるのであって、最初はあいまいだ。あいまいさが許されるような場を、どのように生み出すことができるのか。当日は、その辺りも考えたい。

さて、上に書いた作業を重ねることで、人間の中には、信頼の感覚、自己決定の感覚、主導権の感覚が開花していく。しかし、それらの感覚を開花させないまま養成校に入学してくる学生もいる。また、あいまいさを楽しむことができず、すぐに結論を出したがる学生もいる（私たち、教員だって、結論を急ぎがち）。保育者養成の場で生じる、そうした悩みも当日はさらけ出し、どのような工夫ができるのかを考えたい。

## 令和6年度全国保育士養成セミナー

# 情報交換会のご案内

令和６年度全国保育士養成セミナー情報交換会を、令和元年度以来５年ぶりに開催させていただくことになりました。

全国の会員校の情報交換の場、親睦を深める場として活用いただければ幸いです。

感染症予防の観点から、料理の提供はできませんが、茶菓のご用意は致します。

会議場ではありますが、テーブルと椅子におかけくださり、ゆったりとした雰囲気の中で、ご自由にご歓談ください。

なお事前の申し込みは不要となります。

会　場　案　内　図

日　時：令和６年８月２９日（木）17:30-19:00
場　所：幕張メッセ国際会議場２階
　　国際会議室(最大５７６名収容)
参加費：無料

## セミナープログラム　2日目

| 令和６年８月30日（金）　9：30～16：00 | | ページ |
|---|---|---|
| 9:30～12:00 | **分科会**<br>①「子育て支援」～心理、保育、福祉を総合した学び<br>②保育内容「表現」の指導法の再考～感性の育成を目指す<br>③「子どもの食と栄養」～保育所の食育の実際と養成教育<br>④実習訪問を通じた学生の成長支援～現場とともに保育士を育てる<br>⑤保育職の魅力を伝える～表現を通じたキャリア形成<br>⑥多様な学生への支援～インクルーシブな社会像を見据えて<br>⑦インクルーシブ保育～人・社会の多様性を保障する保育士<br>⑧保育現場における危機管理～子どもの権利と地域社会を守る<br>⑨保育所保育における ICT 化～情報化によるコミュニケーションの可能性<br>⑩保育士の階層化・高度化～養成校の将来像<br>⑪オンライン授業と保育士養成～ ICT を活用した授業<br>⑫養成校教職員の質向上～授業改善等の FD、研修・研究の保障 | 15<br>～<br>28 |
| 12:00～13:30 | **移動・休憩（昼食）** | － |
| 13:30～14:30 | **ブロック研究助成報告**<br>**《北海道ブロック》**<br>テーマ：保育所実習における「実習先ガイドライン（概要版）」を用いた養成校と保育現場の協働的な実習指導の試み<br>深浦　尚子（札幌国際大学短期大学部）<br>佐藤　貴虎（旭川市立大学短期大学部）<br>小林　美花（北翔大学短期大学部）・吉江　幸子（星槎道都大学）<br>傳馬　淳一郎（名寄市立大学）・滝澤　真毅（帯広大谷短期大学）<br>井上　薫（釧路短期大学）・成田　潤子（旭川福祉専門学校）<br>小田　進一（北海道文教大学）・渡谷　能孝（函館大谷短期大学）<br>桟　邦夫（オホーツク社会福祉専門学校）・伊藤　信（札幌こども専門学校）<br>**《東北ブロック》**<br>テーマ：保育者の資質・専門性の向上に資する「保育実習内容チェックリスト」の開発<br>保坂　和貴（秋田大学）・熊谷　賢（専修大学北上福祉教育専門学校）<br>兎澤　聖（尚絅学院大学）・白﨑　直季（羽陽学園短期大学）<br>櫻本　和也（青森明の星短期大学）<br>橋浦　孝明（東北生活文化大学短期大学部）・鈴木　翔太（福島学院大学）<br>**《関東ブロック》**<br>テーマ：新型コロナウイルスの５類移行期における関東地方の保育実習のあり方と保育者養成<br>田中　卓也（育英大学）・北澤　明子（秋草学園短期大学）<br>木戸　直美（静岡福祉大学）・里見　達也（山梨県立大学）<br>浅見　優哉（帝京平成大学）・野見山　直子（彰栄保育福祉専門学校） | － |

| | | |
|---|---|---|
| 13:30 ～ 14:30 | **《中部ブロック》**<br>テーマ：主体的な遊び中心の園における保育者の関わり<br>濱口　実紗希（修文大学短期大学部）・淺川　正堂（修文大学短期大学部）<br>辻　道代（東海学院大学短期大学部）<br>**《近畿ブロック》**<br>テーマ：保育者養成における「運動遊び」の教授内容・方法に関する研究<br>―保育者・学生と共に考える「運動遊び」による保育・発達支援の実践研究―<br>金川　朋子（四條畷学園短期大学）・合田　誠（四條畷学園短期大学）<br>阪江　豪（四條畷学園短期大学）・松下　明日香（四條畷学園短期大学）<br>中村　泰介（大阪大谷大学）・長谷　秀揮（京都西山短期大学）<br>高田　昭夫（大阪総合保育大学）<br>**《中・四国ブロック》**<br>テーマ：文化的に多様な子どもを包摂する「多文化共生保育」実現のための<br>保育者養成校のカリキュラム構築に関する研究<br>河本　智勇（岩国短期大学）・井上　美佳（岩国短期大学）<br>荒谷　容子（岩国短期大学）・中村　洋子（岩国短期大学）<br>朝倉　なぎさ（岩国短期大学）・西本　裕子（岩国短期大学）<br>数井　智子（岩国短期大学）・向山　伊津子（岩国短期大学）<br>富田　雅子（広島文化学園短期大学）<br>**《九州ブロック》**<br>テーマ：保育者養成および保育実践に関する児童文化財の活用についての調査研究<br>丸田　愛子（鹿児島国際大学）・佐藤　慶治（鹿児島女子短期大学）<br>金浦　美咲（鹿児島女子短期大学）・原口　恵（鹿児島国際大学）<br><br>学術研究助成の成果報告<br>１．保育現場において求められている ICT スキル活用の養成カリキュラム<br>に関する研究<br>井口　武俊（共立女子大学）・尾崎　司（東京家政大学短期大学部）<br>岸　康人（高知学園短期大学）・末松　加奈（東京家政学院大学）<br>新家　智子（共立女子大学）<br>２．保育実習における学習プロセスに関する研究<br>―「理論と実践の統合」に着目して―<br>原口　喜充（近畿大学九州短期大学）・東内　瑠里子（日本福祉大学）<br>廣井　雄一（國學院大學）・山瀬　範子（國學院大學）<br>堀田　亮（近畿大学九州短期大学）・垂見　直樹（近畿大学九州短期大学） | – |
| 14:30 ～ 14:45 | **移動・休憩** | – |
| 14:45 ～ 15:45 | **中央研究報告・中央情勢報告** | – |
| 15:45 ～ 16:00 | **閉会式** | – |

# 分科会　一覧

番　号　テーマ
（ページ）　　話題提供者Ⅰ　　話題提供者Ⅱ
企画・司会者

1　「子育て支援」～心理、保育、福祉を総合した学び

（P.17）　勝山　幸 氏（東京家政学院大学）　石丸　るみ 氏（大阪総合保育大学）
鈴木　彬子 氏（東京家政大学）

2　保育内容「表現」の指導法の再考～感性の育成を目指す

（P.18）　村上　康子 氏（共立女子大学）　吉永　早苗 氏（東京家政学院大学）
佐野　美奈 氏（常葉大学）

3　「子どもの食と栄養」～保育所の食育の実際と養成教育

（P.19）　小野　友紀 氏（大妻女子大学短期大学部）　鈴木　八朗 氏（社会福祉法人久良岐母子福祉会 くらき永田保育園）
遠藤　純子 氏（昭和女子大学）

4　実習巡回を通じた学生の成長支援～現場とともに保育士を育てる

（P.20）　矢藤　誠慈郎 氏（和洋女子大学）　木戸　啓子 氏（倉敷市立短期大学）
利根川　智子 氏（東京未来大学）

5　保育職の魅力を伝える～表現を通じたキャリア形成～

（P.21）　永岡　和香子 氏（浜松学院大学短期大学部）　捧　公志朗 氏（こども教育宝仙大学）
吉田　収 氏（小田原短期大学）・有村　さやか 氏（小田原短期大学）

6　多様な学生への支援～インクルーシブな社会像を見据えて

（P.22）　服部　伸一 氏（関西福祉大学）　友永　粧子 氏（成田国際福祉専門学校）
前嶋　元 氏（東京立正短期大学）

# 分科会　一覧

（分科会一覧：続き）

番　号　テーマ
（ページ）　話題提供者Ⅰ　話題提供者Ⅱ
企画・司会者

## 7　インクルーシブ保育～人・社会の多様性を保障する保育士

（P.23）　鈴木　真紀 氏（県立安房特別支援学校館山聾分校）　増川　智美 氏（馬橋保育園）
小川　晶 氏（植草学園大学）

## 8　保育現場における危機管理～子どもの権利と地域社会を守る

（P.24）　小俣　みどり 氏（子育てネットワーク・ピッコロ）　倉石　哲也 氏（武庫川女子大学）
野田　敦史 氏（高崎健康福祉大学）

## 9　保育所保育におけるICT化～情報化によるコミュニケーションの可能性

（P.25）　請川　滋大 氏（日本女子大学）　佐藤　栄作 氏（幼保連携型認定こでまりこども園）
林　康成 氏（山梨県立大学）

## 10　保育士の階層化・高度化～養成校の将来像

（P.26）　美尾　向咲 氏（常葉大学）　水落　洋志 氏（兵庫教育大学）
伊藤　理絵 氏（常葉大学）・甲賀　崇史 氏（常葉大学）

## 11　オンライン授業と保育士養成～ICTを活用した授業

（P.27）　奥村　典子 氏（聖徳大学）　柴田　亮 氏（AIAI NURSERY第二東池袋）
岡本　尚志 氏（聖徳大学）

## 12　養成校教職員の質向上～授業改革等のFD、研修、研究の保障

（P.28）　小島　千恵子 氏（あいち保育研修研究協議会）　白井　祐子 氏（しらゆりこども園）
田中　卓也 氏（育英大学）・渡辺　一洋 氏（育英大学）

# 第１分科会
# 「子育て支援」～心理、保育、福祉を総合した学び

話題提供　石丸　るみ　氏（大阪総合保育大学）
勝山　幸　氏（東京家政学院大学（非））
企画・司会　鈴木　彬子　氏（東京家政大学）

**【趣　旨】** 本分科会では、これからの保育者に求められる子育て支援の役割について整理すると共に、学生が養成課程において子育て支援に関する知識と実践を統合した学びを得るために何ができるのか、教科目「子育て支援」の工夫と、養成課程においてできることを幅広く検討したいと考えている。

教科目「子育て支援」は，児童福祉法第 18 条の 4 に定められる保育士の役割「保護者に対する保育に関する指導」について、実践的に学ぶことを目的に設けられた保育士資格必修科目（演習）である。授業を通して学生は、保育の専門的知識・技術を背景とした子育て支援について、具体的・実践的な内容の充実を図るために必要な知識と技術を修得する必要がある。しかし、養成課程の段階で学生が「子育て支援に必要な知識と技術を身につけた」と自信を持って言える状態になるためには課題がある。加賀谷ら（2015）は、学生が保護者支援について養成校である程度学んでいると感じているものの、それが保護者を支援していく上での自信にはつながっていないことを明らかにしており、この矛盾を解消するためには「学校で学ぶことが、保護者支援にどう役立つのか具体的なヴィジョンをもたせ、保育者の専門性と子育ての関係をわかりやすくしていくこと」が必要であるとした。このヴィジョンを持つ上で、実際に経験をすることが有効であると考えるが、保護者との対話や子育て支援について、多くの学生が保育実習等においても経験する機会に乏しく、知識と実践を統合する機会がない状況にあると言える。

これらの現状から本分科会では、心理・保育・福祉を統合した知識・技術が求められる今日の子育て支援の実践において、保育者の専門性を発揮してどのような子育て支援ができるのか、他職種連携が求められる子育て支援の現場における保育者の役割と、子育て支援に関する知識と実践を統合する学びを得るために行われている授業実践の工夫について話題提供をしていただく。そして、学生が子育て支援について学ぶことの課題と可能性について議論し、養成課程においてできることを検討したい。

加賀谷崇文・髙橋貴志・寺澤美彦・望月雅和（2015）保護者支援のできる保育者養成に関する研究―保育者養成校の学生に対する意識調査から―．子育て研究，5，30-40

**【実施方法】** 分科会前半では、2 名の話題提供者からそれぞれの立場で 30 分間ずつ発表していただき、引き続き話題提供者への質疑応答を行う。分科会後半では、参加者間での意見交換を行う。分科会の最後には参加者による意見交換の内容を発表していただき、参加者全員で情報を共有する。

# 第２分科会
# 保育内容「表現」の指導法の再考～感性の育成を目指す

話題提供　吉永　早苗　氏（東京家政学院大学）
村上　康子　氏（共立女子大学）
企画・司会　佐野　美奈　氏（常葉大学）

## 【趣　旨】保育内容「表現」（音楽）の学びと指導法に求められることの検討

保育内容「表現」の学びは、乳幼児期の発達的特徴に基づいた「表現」を理解し、保育者を目指す学生が自ら表現活動を創出し、活動内容を構成して実践の場を経験するところまで幅広い。そのために、保育士養成校では、保育内容「表現」について、どのような指導を行うと学生の効果的な学びが得られるのかについて試行錯誤されてきた。

この分科会では、幅広い「表現」の中でも音楽的表現に焦点化し、その指導法について再考し、感性の育成を目指すために必要なことについて検討する。そのために次の２項目について議論を行う。

１．乳幼児期の発達的特徴と音楽的な表現のありよう

様々な研究報告における理論と実践例を取り上げ、乳幼児期の発達的特徴と音楽的な表現について考察する。その上で、乳幼児期における音楽的な表現とは何か、何が目指されているのかについて明らかにする。

２．保育内容「表現」（音楽）の指導法に求められること

上記１に基づき、保育者を目指す学生に必要な音楽的表現に関する学びは何か、実践例を挙げながら考察する。

## 【実施方法】話題提供者による講演と参加者によるグループワーク

１．話題提供者２名による問題提起と提案（1時間：30分間ずつ、質疑応答と交替時間を含む）

話題提供者の吉永早苗氏が議論２項目のうち１を中心に、保育内容「表現」とは何か、乳幼児期の音楽的表現とは何か、今日の表現（音楽表現）の指導法に関する課題は何かについて論じる。

話題提供者の村上康子氏が、議論２項目のうち２を中心に、保育者を目指す学生に必要な音楽的表現に関する学び、保育内容「表現」（音楽）に関する指導内容について検討する。

２．受講者によるグループ別の議論（グループワーク40分間と全体報告20分間、質疑応答等10分間）

分科会参加者によるグループワークを通して、保育士養成校の「表現（音楽）」の指導法に関する意見交換を行い、全体に報告・発表する。グループワークでは、あらかじめ用意されたシートの項目に沿って、保育内容「表現」（音楽）に関する学びの内容、乳幼児期の音楽的表現を促す方法やその指導法の実態と課題、および指導法に求められることについての意見交換を行う。グループ別に意見をまとめて、全体報告会で発表する。

３．話題提供者によるコメントとまとめ（10分間程度）

グループワーク後の全体報告会での発表や意見交換を踏まえて、話題提供者２名が意見を述べ、総括を行う。

# 第3分科会
# 「子どもの食と栄養」～保育所の食育の実際と養成教育

話題提供　小野　友紀　氏（大妻女子大学短期大学部）
鈴木　八朗　氏（社会福祉法人 久良岐母子福祉会 くらき永田保育園）
企画・司会　遠藤　純子　氏（昭和女子大学）

**【趣　旨】** 昨今、「保育の質」が様々な角度から検討され、保育の質の確保・向上に向けての研究や実践が重ねられつつある。子どもの生活が充実したものとなるよう、保育の一つひとつの営みを丁寧に見直していく時機にあるとも言えよう。保育の場における日々の生活に「食」は欠かせないものであり、年齢が低いほど生活の中での位置づけが大きい。保育者は、食事の場が子どもにとって幸せを感じられる場であるよう配慮するとともに、食への興味が芽生え、生きる力の基礎が培われることを視野に入れながら、食にかかわる経験を考えていくことが重要である。食育の推進、アレルギー児への対応、子どもの発達に合わせた調理形態など、保育の場における食には、保育士・調理員・栄養士・看護師等の職員、そして家庭、地域の関係者等、多様な連携が求められる。そうした連携の重要性を理解した上で、子どもたちが日々の生活の中で食にかかわる多様な経験ができるよう、保育士養成課程では理論と実践を結びつけることのできる学びの機会を提供していくことが求められよう。

保育士養成課程では、食について学ぶ機会として、主に教科目「子どもの食と栄養」が挙げられる。食は子どもの生活に切り離せない領域でありながらも、相対的にみて養成課程の中で学ぶ時間は多くあるとは言い難く、子どもの育ちに応じた食事援助や環境、連携の実際等は、現場に出てから勤務先の園で実践されている方法や慣習から学ぶところが大きい。一方、栄養士養成課程では、子どもの育ちや乳幼児食に深く特化して学ぶ時間は少ないため、卒業後に各現場で試行錯誤しながら知識や実践力を習得していかざるをえない状況が多く見受けられる。さらに、保育士・栄養士ともに「食」についての現職研修の機会が十分に保障されているとは言い難い状況もある。そうした現状を踏まえ、子どもの日々の生活の質を保障するために、養成教育でできることは何か、現場のニーズにも耳を傾けながら再考することが求められるのではないだろうか。

本分科会では、保育士養成と栄養士養成双方の経験を有する小野友紀氏、そして多彩な食に関する活動を展開するくらき永田保育園園長の鈴木八朗氏から話題を提供いただき、保育士養成のこれから、そして養成校と保育現場との連携・協働について議論を深めたい。

**【実施方法】** 分科会の趣旨説明の後、話題提供者それぞれのお立場から発表いただく（約60分）。質疑応答の後、グループに分かれ討議を行い（約50分）、各グループから討議内容を発表いただく。話題提供者からのコメントを交え、学びを深めたい。

# 第4分科会
# 実習訪問を通じた学生の成長支援～現場とともに保育士を育てる

話題提供　矢藤　誠慈郎　氏（和洋女子大学）
木戸　啓子　氏（倉敷市立短期大学）
企画・司会　利根川　智子　氏（東京未来大学）

## 【趣　旨】

学生たちは実習で、学内の学びを基礎として、保育者になるための専門的な学びを主体的にしていく。保育実習のミニマムスタンダードver. 2によれば、「『訪問指導』は、学生が実習を実施している時間に、実施している場で、養成校の教員が直接指導する機会」であり、「養成校教員と学生の双方にとって、実習前に作成した計画の実施状況を中間的に把握する機会となり、必要に応じて後半への動機づけや軌道修正をすることによって後半の実習をより有効な学びとすることが可能となる」とされている。

学生の学びの観点から、保育実習は、実習受け入れ施設（以下、実習施設）と保育士養成校との協働により実施されることが望ましい。実習訪問は、実習施設と保育士養成校とが協働する機会の一つでもある。例えば、学生の実習状況や実習態度等に関する実習施設との情報共有、保育所での指導内容についての情報提供、養成校における学生の普段の姿や教育内容に関する情報提供などが行われたり、保育所内における指導を検討したり、養成校教員が学生の実習に関する悩みや実習目標の修正等についての情報共有を行ったりする。

そして、学生にとって実習訪問は、養成校教員と会って安心したり、実習中に生じた悩みや不安を相談したり、実習中に感じた喜びや嬉しかったことを伝えたりする機会でもある。その中で、実習の目標の達成に向けた自身の成長や課題を整理したり、実習目標や実習内容の調整をしたり、成長に向けた指導を受ける場であったり、不安や悩みについて保育所との橋渡しをしてもらう場でもある。

また、実習は保育士の指導のもとで保育業務を体験的に学ぶ機会である。学生の中には、実習中の体験や経験により、将来の職業イメージを深めたり、保育士の仕事と私生活の両方を垣間見たりして、もし自分が保育士になったらどんな一日になるだろうか、どんなキャリア形成をするのだろうかと想像したりしながら、実習に臨むこともあるだろう。そのような時、養成校教員による実習訪問時の指導は、保育の専門職者として育つ学生の最初の一歩を支えるような、スーパーバイズを受ける機会の一つになるだろう。このように考えれば、保育実習はキャリア教育の一環であると考えることができるのではないだろうか。

本分科会では、保育実習の訪問指導について、基本的な意義・目的、学生の立場から見る保育実習と実習訪問、保育実習及び実習訪問を通した学生のキャリア形成について、具体例もふまえて検討していく。

## 【実施方法】

分科会の前半では、話題提供者2名により50分間のご報告をいただき、質疑応答を行う。後半では、参加者によるグループワーク及び報告等を50分間、その後、話題提供者からのコメントやまとめを20分間行う。

# 第５分科会
# 保育職の魅力を伝える～表現を通じたキャリア形成

| | | |
|---|---|---|
| 話題提供 | 永岡　和香子　氏 | （浜松学院大学短期大学部） |
| | 捧　公志朗　氏 | （こども教育宝仙大学） |
| 企画・司会 | 有村　さやか　氏 | （小田原短期大学） |
| | 吉田　収　氏 | （小田原短期大学） |

## 【趣　旨】

保育活動において表現系の活動は主活動の中心的な役割を占めることが多く、保育士には子どもの豊かな表現活動を展開するための環境の工夫や指導法の獲得が求められる。子どもの未分化で多様な表現を受け止める感性を育むことは、保育職のキャリア形成の重要な要素の一つであると言える。

キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」（平成23年中央教育審議会）を指し、保育者養成にあてはめた場合、保育職としての専門性を高めるような感性を養う教育とも考えられる。

昨今は、保育士の社会的地位や待遇面、保育の質を保つ環境整備などの課題により、早期離職や保育職の敬遠が問題となっているが、表現の活動は、子どもと共に表現する喜びを分かち合える場として保育職の魅力を伝える一面を持つ。表現のすばらしさを子どもに伝えることのできる職として保育への志望動機に繋がり、魅力ある職業の場としての転換が目指せるのではないかと考える。

そこで、この分科会は「音楽表現」と「造形表現」の立場から、それぞれで感性を育む授業に取り組んでいらっしゃるお二人を話題提供者としてお招きし、「表現」の魅力の幅広さをお話しいただき、表現を通じたキャリア形成に求められる感性を引き出す方策を模索したい。話題提供、両氏の質疑応答の後、グループワークとして、表現だけではなく、それぞれが取り組むキャリア形成の取り組みの情報交換を行っていただく。今回、久しぶりの対面での分科会開催でもあるので、活発な議論が交わされることを期待する。

## 【実施方法】

・自己紹介、分科会の趣旨・進め方・スケジュール・資料等の説明（10分）
　話題提供（30分×２）
　質疑応答（10分）
　休憩・グループ編成・グループワークの準備（10分）
　グループ討議（30分）
　発表とまとめ（運営責任者、話題提供者等によるまとめ）（30分）

# 第6分科会
# 多様な学生への支援～インクルーシブな社会像を見据えて

話題提供　服部　伸一　氏（関西福祉大学）
友永　粧子　氏（成田国際福祉専門学校）
企画・司会　前嶋　元　氏（東京立正短期大学）

**【趣　旨】** 社会福祉法人日本保育協会（2016）の、障害児やいわゆる「気になる子ども」の受入れ実態の全国的な調査では、回答保育所全体の60.0%に障害児がおり、92.7%に「気になる子ども」がいることが明らかとなった。保育現場においては、障害のある子どもだけでなく何らかの配慮が必要な子どもがどの園にもいると言えるだろう。また、「第3回幼児教育･保育についての基本調査」（ベネッセ教育総合研究所）（2018）によれば、保育者に必要な研修として、園種を問わず、「特別な支援を必要とする子どもの理解や保育」を約7～8割の保育者が選択している。このように保育現場では配慮の必要な子どもへの理解と支援が今まさに求められている。

現在、保育士養成校において、病気、障害、家庭環境（貧困、DV、虐待、ヤングケアラーなど）、外国籍、LGBTQなど多様な学生が在籍している。学生の中には、人間関係、授業、実習などで困難を示し、ドロップアウトしてしまう学生も少なくない。そういったことを予防していくために、多様な学生が、排除されない、インクルーシブな教育環境づくりは求められるだろう。保育の道を志し、入学してきた学生の潜在的な力を引き出し、可能な限り資格取得に繋げ保育現場で多く活躍できるように支援することは、保育の多様性を生み出し、配慮の必要な子どもへの対応の充実につながる可能性があるだろう。保育の多様性は、インクルーシブな社会の創造の担い手となる子どもたちを育てることにつながるものでもあり、とても重要であると考える。

以上のことを踏まえて、今回の分科会では多様な学生への支援のための、保育士養成校におけるインクルーシブな教育環境づくりに焦点を当てて参加者とともに考えていきたい。

**【実施方法】** 話題提供者の服部伸一氏からは「対人関係の苦手な学生が保育専門職に就くための修学支援プログラム」について、友永粧子氏からは「保育現場経験を活かした保育士養成校における多様な学生の支援の実践」について報告する。報告後、質疑応答の時間をとる。

企画者より論点を整理した後に、参加者によるグループ討議･全体共有を行う。それらを通して、インクルーシブな教育環境づくりの必要性とその具体的方法について検討していきたい。

# 第７分科会
# インクルーシブ保育～人・社会の多様性を保障する保育士

話題提供　増川　智美　氏（社会福祉法人つくし会　馬橋保育園）
鈴木　真紀　氏（千葉県安房特別支援学校館山聾分校）
企画・司会　小川　晶　氏（植草学園大学）

**【趣　旨】** 子ども一人一人を尊重し子どもが主体的に過ごせるように配慮することや、子どもに合わせて合理的な配慮を検討することの必要性について、今日の保育士養成では保育の中心的な視点として一般化され、保育士を目指す誰もが学ぶ機会を得ている。一方でその実践の方法となると、授業で指導される指導案の作成は一斉の保育内容を前提としていたり、集団を単位とした活動を想定した表現活動が提案されたりすることが多いのが実態である。学生は実践の練習を重ねていくうちに、「集団」のなかにいる子どもを「一人一人の子ども」であると誤認する傾向もある。「保育所保育指針」（厚生労働省 2017 年）は、「一人一人の子ども」「一人一人が」など、子どもを個別的に捉える視点が非常に多く、「集団」という表記や内容の規定はわずかである。「保育所保育指針」を深く学ぶことをしながらも、実践の経験は「一人一人の子ども」に対しての視点や配慮が不足しているものであるかもしれない。保育士養成校を卒業して実際に保育士として子どもたちを担当したとき、養成校で親しんできた一斉、一律の活動を実践するならば、子どもの個性は「集団からはみ出す」といった見え方をしたり、集団に参加させることが援助であるかのような実践が展開されたりすることもあり、結果的に子どもの育ちを保障する活動とは言い難いこともある。その実践は、保育において我が子が周辺化されることを保護者に経験させ、子ども理解から遠ざけてしまうケースもある。こうしたケースでは、「保育所保育指針」に規定される保育の基本的な実践ができていないことへの内省がないままに困難性の高い子どもへの特別な保育の必要性だけが語られ、それがインクルーシブ保育の難しさとして取り違えられることもある。インクルーシブな保育は特有の実践ではなく、基本的な保育実践で構成されることを理解し、「一人一人の子ども」やその保護者に対するアセスメントスキルや、一人一人に対する指導計画と実践を養成課程において経験して親しんでおく必要があると考える。

本分科会では、インクルーシブ保育とはどのような実践なのかを再度問い、実践事例を共有しながら、インクルーシブ保育を構成する実践を可能とするキャリア形成や指導などについて提案することを試みる。

**【実施方法】** 本分科会の趣旨を説明後、２名の話題提供者より実践事例を提供していただく。視点の整理をしてから、会場の皆様とグループワークによる意見を交換しながら、実践への示唆を得る。

# 第８分科会

## 保育現場における危機管理～子どもの権利と地域社会を守る

| | | |
|---|---|---|
| 話題提供 | 小 俣　みどり　氏 | （子育てネットワーク・ピッコロ） |
| | 倉 石　哲 也　氏 | （武庫川女子大学） |
| 企画・司会 | 野 田　敦 史　氏 | （高崎健康福祉大学） |

**【趣　旨】**

近年、我が国における保育士を取り巻く社会環境は、“保育・子育て支援の多様化に対する期待”と“保育人材確保における質・量への不安”とのジレンマの中にあると言っても過言ではない。子ども・子育て支援新制度以降、地域の実情に合わせた保育・子育て支援の充実が進められ、結果的に子育て親子は、身近なところで様々な子育て支援・保育施設を、多くの選択肢の中から選ぶことができる地域環境となってきている。このことは、保育現場の多様化を生み出し、私たち保育士を養成する現場においても、これらの社会変化に対応した人材育成が求められていることを示している。一方、実践現場に目を向けると、労働生産人口の減少に伴う人材不足への危惧、あるいは、人材確保に伴う多様な雇用形態へ傾倒せざるを得ない保育現場の実態があり、そこで働く正規雇用の保育士に求められる負担･重圧等は、現場の管理監督者とそこで働く保育士、双方にとって厳しい社会環境となってきている事実も存在して来ている。

このような社会環境に伴う顕在化する問題のひとつとして近年、保育現場における保育士による「不適切保育」の実態が挙がっている。こども家庭庁の調査では、不適切な保育を「人格を尊重しない」「ものごとを強要する・脅迫的な言葉がけ」「罰を与える」などと定義し、その件数を把握したところ 2022 年 4 ～ 12 月に自治体が不適切な保育として確認したのは 914 件で、そのうち 90 件については暴力や暴言などの「虐待」があったことが明らかとなっている。この現実は、もはや特定の地域や保育園・保育士だけの問題として捉える事象ではないレベルであり、私たち保育士養成の視点からも検証すべき問題のひとつである。

そこで本分科会では、現場における“保育の多様化”と“人材確保・育成上の課題”を再確認し、その環境下で派生する問題のひとつとして「子どもの（生きる・育つ・守られる・参加する）権利の侵害」として捉えることとする。そして、管理・育成上の観点から、この問題を「保育現場の危機管理上の問題」として捉え直し、共通課題として「虐待を含む不適切保育の実態」をトピックに、その事前・予防策として「保育者養成教育において今、私たちができること」を話題提供者・参加者とともに検討していくこととする。具体的には、地域の中で住民参加型の保育・子育て支援・保育実践を行っている子育てネットワーク・ピッコロの理事長であり保育士でもある小俣みどり氏より、ピッコロの運営・活動内容を紹介しながら、子どもの育ちや様々な親たちが抱える生活上の課題、さらに管理運営上の観点から職員確保・人材育成について語っていただくこととする。また、“子どもの人権を守る視点・取り組み”について制度・政策的あるいは研究・養成教育的観点から倉石哲也氏に、ご著書でもある「保育現場の子ども虐待対応マニュアル」の内容をもとに話題提供していただくこととする。そして、最終的には、本分科会テーマに対して“保育士養成カリキュラムの講義・演習・実習において今、私たちに何ができるか”について方法論的検討を試みたい。

**【実施方法】**

①話題提供：

小俣みどり氏「地域における保育現場の実態　～子ども・保護者・保育者の姿と実践上の課題～」

倉石　哲也氏「保育現場における子ども虐待防止の取り組みと予防から発見･通告･支援のシステムづくり」

②ワークショップ：

ケーススタディ＆ケースカンファレンス

③グループディスカッション

検討テーマ「保育士養成カリキュラムで出来ること」

# 第 9 分科会
# 保育所保育における ICT 化～情報化によるコミュニケーションの可能性


| | | |
|---|---|---|
| 話題提供 | 請　川　　滋　大　氏 | （日本女子大学） |
| | 佐　藤　　栄　作　氏 | （社会福祉法人秀愛福祉会<br>幼保連携型認定こでまりこども園） |
| 企画・司会 | 林　　康　成　氏 | （山梨県立大学） |


## 【趣　旨】

現代社会にあって、2023 年から生成系 AI が話題となり、世界的に ICT 活用と教育の在り方の方向性を模索しつつある。海外では、STEM 教育から STEAM 教育への動きが進み、国際団体 ATC21s が定める 21 世紀型スキルにも情報活用能力がスキルのひとつとして示され、より ICT 活用能力と情報リテラシーの向上が求められている。これまでの保育者養成においてはICT 活用の方略が乏しいことから、情報化の必要性は高い。また、デジタルネイティブ世代の幼児への見通しをもった学びの機会の創出と継続への取り組みがみられるようになった。養成校における ICT 環境の整備状況等は異なるものの、さらなる教育の質の向上を目指して授業や実習指導の ICT の活用方法も多様化してきている。

そこで本分科会では、保育現場や養成校における ICT 活用の事例や状況・変化、そして AI 技術の活用について話題提供をいただきながら、養成校（教員・学生）と保育現場（保育者・子ども・保護者）のさまざまな「つながり」をふまえて、保育者養成における専門性や質ならびに保育現場と養成校の連携協働に向けた視点を広げるきっかけとしたい。

## 【実施方法】

☆ ICT を活用した①話題提供と②グループワークを行う。

①話題提供の際に、参加者の皆様からの質問を話題提供者がグーグルフォームで即時的に受け付け、回答する。

②参加者 2 ～ 4 名で 1 台のタブレット端末を活用しながら、小グループでグループワークを実施する。

グループワークの内容

保育現場における ICT 活用（保育に関わるもの、業務負担を減らすもの）や養成校として、ICT 活用（実習ノート等）について意見交換し、共に考え、知識を広げ、参加者同士が考えを深める。各グループで出された意見をアプリケーション「Notion（ノーション）」に投稿し、リアルタイムで情報共有する。また、業務負担を減らすアプリケーションを周知するために、参加者は分科会終了後も一定期間内容をアプリケーションで振り返るとともに、活用できるように設定する。

＊参加者がお持ちの Google アカウント（Google が提供しているメールサービスの Gmail のメールアドレスとパスワード）を使用します。お持ちでない場合は、こちらで用意したアカウントを使用してください。

# 第 10 分科会
# 保育士の階層化・高度化～養成校の将来像


| | | |
|---|---|---|
| 話題提供 | 水　落　　洋　志　氏 | （兵庫教育大学） |
| | 美　尾　　向　咲　氏 | （常葉大学（学生））[1] |
| 企画・司会 | 伊　藤　　理　絵　氏 | （常葉大学） |
| | 甲　賀　　崇　史　氏 | （常葉大学） |


## 【趣　旨】

国内外で保育・幼児教育の専門性の高度化が求められている中で、日本は、保育者の基礎的な学位レベルが学士となっている国際的な潮流に乗り遅れており、指定保育士養成施設（以下、養成校という）の課題も山積している (cf. 国立教育政策研究所 ( 編 ), 2020; 矢藤 , 2022)。本分科会では、保育士の階層化・高度化を考えるにあたり、「建設的に議論する力の養成」を軸に、複数の養成校での指導経験のある水落氏、保育士養成において卒業論文に取り組む意義について学生の立場から美尾氏に話題提供していただく。

現在、養成校（専修学校、短期大学、大学など）で所定の単位を修得すれば、卒業と同時に保育士資格を取得できる。つまり、保育士養成に携わる者には、卒業と同時に学生に対して国家資格を与える責任が課せられているものの、ともすると、どの程度「高度」な専門性をもった保育士を養成するか否かは、各養成校が「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」をどのように解釈するかで大きな開きができる恐れを有する。この恐れを養成校の質担保の“危機”と考え、養成校の将来像について議論したい。

［文献］


国立教育政策研究所（編）（2020）*幼児教育・保育の国際比較：OECD 国際幼児教育・保育従事者調査 2018 報告書 質の高い幼児教育・保育に向けて*　明石書店 .

矢藤誠慈郎（2022）保育士養成の現状と課題　日本家政学会誌，73(5)，pp.279-284.


1）所属は 2024 年 3 月のもの

## 【実施方法】　当日プログラム（予定）

9：30 ～ 10：40　　趣旨説明・話題提供・質疑応答

10：40 ～ 10：50　　休憩・グループワークの準備

■ディスカッションテーマ：養成校の将来像－建設的に議論する力の養成－（仮）

10：50 ～ 12：00　　グループディスカッション・発表・まとめ

# 第 11 分科会
# オンライン授業と保育士養成～ ICT を活用した授業

話題提供　奥村　典子　氏（聖徳大学）
　　柴田　亮　氏（AIAI NURSERY 第二東池袋）
企画・司会　岡本　尚志　氏（聖徳大学）

## 【趣　旨】

近年、教育界を取り巻く情報教育についての状況が大きく変化しつつある。高等学校では、学習指導要領改訂に伴い、これまで選択必修であったプログラミングが必修となり、新課程を学んだ生徒たちは 2025 年度から大学に入学してくる予定である。大学では、内閣府が AI 戦略 2019 において、「大学卒業時には文理を問わず全ての大学・高専生が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・ＡＩを習得すること」を、さらに AI 戦略 2022 ではそれらの「社会実装の推進」をそれぞれ具体的な目標として掲げており、さらに文部科学省では今後の高等教育において文理横断・文理融合教育を推進する方策を打ち出しており、専門や業種に関係なく、より一層 ICT 利用・活用のスキルが求められている。

また、2020 年からの COVID － 19 感染拡大により各学校や企業など多くの所で対面対応ができず、主としてオンラインが利用されはじめたことはまだ記憶に新しいところである。導入当初は利用者が右往左往しているケースも見られたが、現在では利用に慣れてきている場面もみられ、オンラインを利用することにより対面と変わらない、むしろ、対面以上のメリットも報告されている。

そこで本分科会では、保育士養成校や保育現場におけるオンラインを活用した事例や状況・効果について、養成校および保育現場のそれぞれの立場から話題提供をいただきながら、ICT の新たな活用方法や AI 技術の導入・活用などに触れながら意見交換を行い、これからの保育者養成における質向上と専門性を高めるための機会としたい。

## 【実施方法】

２名の話題提供者にそれぞれ 20 ～ 30 分程度ずつ、それぞれの立場でご発表いただく。続いて、質疑応答を含め話題提供者によるディスカッションを行う。10 分程度の休憩後、グループワークを行い、各グループから結果を発表いただく。

# 第 12 分科会

## 養成校教職員の質向上～授業改善等の FD、研修・研究の保障

| | | |
|---|---|---|
| 話題提供 | 小 島　千 恵 子　氏 | （あいち保育研修研究協議会） |
| | 白　井　　祐　子　氏 | （学校法人長生学園　しらゆりこども園） |
| 企画・司会 | 田　中　　卓　也　氏 | （育英大学） |
| | 渡　辺　　一　洋　氏 | （育英大学） |

**【趣　旨】**

本分科会では、養成校教職員のさらなる質向上をめざすために、授業改善の取り組みや研修や研究がどのようになされていくべきかについて、議論を行うことを内容とする。

昨今では乳幼児期における保育・教育の質の重要性が広く認識されるとともに、保育の質の確保や向上を支える保育者の専門性やキャリア形成が注目を浴びている。厚生労働省では幼児教育・保育の質向上に向けた具体的な取組みの方向性を探るべく、「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」が開かれ「子どもにとってどうか」という視点を基本としつつ，日々の保育の振り返りや対話，記録を土台とするとされ，そのための具体的な取組みを組織全体で進めていくために，保育者一人ひとりの主体的・継続的な参画と職場の環境づくりが求められるとされている。

分科会の話題提供者として①長年保育者養成校での保育実習を担当し、養成校退職後も引き続き保育者養成おもに研修について携わりながら企画担当を行っている小島千恵子氏、②長年地元で保育士活動を行い、現在は幼保連携型認定こども園の園長のお立場で園内研修について積極的に実施を進める白井祐子氏をそれぞれお招きし、これからの現場で求められる保育士の研修内容、その特徴についてお話をいただきながら、令和期にむけた保育士研修のあり方、ビジョンを通じて養成校教職員に必要なもの、求められるものとは何かについてお話をいただく。なお話題提供者をはじめ、当日対面参加いただける参加者とともに、さまざまな角度から意見、疑問などを出し合いながら、探っていきたい。

**【実施方法】**

最初の 20 分間、２名の話題提供者からそれぞれの立場で発表いただく。続いて話題提供者によるディスカッションを展開しながら、グループワークを通して参加者の皆様からの質疑応答を受け付ける。分科会に参加される先生方の活発な議論や取り組みについて希望したい。

# 中央研究報告

**講　師**　　保育士養成研究所　研究担当副所長

# 中央情勢報告

**講　師**　　全国保育士養成協議会　常務理事

# セミナー参加申込（ＷＥＢ）のご案内

## セミナー参加申込の流れ

| | |
|---|---|
| 1 | 全国保育士養成協議会ホームページ内にある全国保育士養成セミナーページ（http://www.hoyokyo.or.jp/seminar/）の「参加申込フォーム」からお申し込みください。 |

**申込期間：令和6年5月9日（木）10時00分～7月26日（金）17時00分**

※ 参加申込は1人ずつお申し込みください。

※ セミナーには、学生・大学院生および児童福祉施設職員等の方も参加できます。

※ 参加者にはセミナー直前（概ね1週間前）に、実施要項等の案内をメールにてお送りしますので、参加者ごとに確認できるメールアドレスの登録をお願いします。

| | |
|---|---|
| 2 | 下記の払込先に参加費の払い込みをお願いします。（払込に係る手数料はご負担願います） |

**払込締切**：**<u>令和６年７月26日（金）まで</u>**

**●ゆうちょ銀行の窓口・ＡＴＭからの払込**

00160-1-607757　　一般社団法人　全国保育士養成協議会

※**2人以上まとめて振り込む場合**は、払込取扱票の**<u>通信欄に全員のお名前を記入</u>**してください。

**●ゆうちょ銀行以外からの払込**

金融機関コード：9900　　店番：019　　預金種目：当座　　口座番号：0607757

一般社団法人全国保育士養成協議会

※**2人以上まとめて振り込む場合**は、**<u>必ず事前にご連絡ください。</u>**

| | |
|---|---|
| 3 | セミナー直前（概ね１週間前）に、実施要項等の案内をメールにてお送りします |

- 資料の配布方法についてはメールにてご確認ください。
- 領収書の発行は払い込み時の受領証をもって代えさせていただきます。

※ 別途ご希望の場合は全国保育士養成協議会総務課宛てにメール（seminer@hoyokyo.or.jp）にてご依頼ください。

## 【参加申込内容のキャンセルについて】

参加申込をキャンセルする場合は、令和6年7月26日（金）までに「変更届」に必要事項をご記入の上、メール(seminar@hoyokyo.or.jp)にてお送りください。

令和6年7月26日（金）までにご連絡をいただいた場合に限り、お支払いただいた金額から振込手数料を差し引いた金額を返金いたします。

なお、令和6年7月27日（土）以降のキャンセル・返金についてはできかねますのでご了承ください。

名鉄観光サービス㈱ 千葉支店に宿泊を申し込んでいる方は別途、名鉄観光サービス㈱ 千葉支店にご連絡ください。

## 【参加申込内容の変更について】

参加申込内容を変更される場合は、令和6年7月26日（金）までに「変更届」に必要事項をご記入の上、メール(seminar@hoyokyo.or.jp)にてお送りください。ただし、分科会の変更については、定員の都合等によりお受けできない場合があります。

なお、令和6年7月27日（土）以降の変更については、申込状況により対応させていただきます。

名鉄観光サービス㈱ 千葉支店に宿泊を申し込んでいる方は別途、名鉄観光サービス㈱ 千葉支店にご連絡ください。

## 【変更届】

全国保育士養成協議会ホームページ内にある全国保育士養成セミナーページ（http://www.hoyokyo.or.jp/seminar/）に「参加申込フォーム」とあわせて掲載します。

【キャンセル・変更についてのお問合せ先】

一般社団法人全国保育士養成協議会　総務課

Ｔ Ｅ Ｌ：03-3590-5551
E-mail：seminar@hoyokyo.or.jp

# 令和６年度全国保育士養成セミナー
# ～ 宿泊プランのご案内 ～

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
この度は「令和6年全国保育士養成セミナー」が千葉県にて開催されますことを心より歓迎申し上げます。
各地からご参加されます皆様方の宿泊のご案内を名鉄観光サービス㈱千葉支店にてお手伝いさせていただくことになりました。
つきましては、下記の通りご案内をさせていただきますので、皆様からのお申込を心よりお待ち申し上げます。

敬具

## 【お申込みのご案内】

別紙「宿泊申込書」に必要事項をご記入の上、名鉄観光サービス㈱ 千葉支店宛にFAXにてお申し込みください。

《FAX番号》043−225−3734
電話による新規お申し込みは、聞き間違い等のトラブル防止のため承っておりません。

宿泊券・請求書等のご送付、お支払いについて

・お申込受付後、宿泊券・請求書を、各法人の連絡担当者様へご利用日の3週間前を目途に発送させていただきます。
・お手元に届きましたら内容をご確認の上、請求書記載の指定期日までにお振込ください。なお、振込先は後日送付する請求書に記載させていただきます。（振込手数料は別途ご負担いただきますようお願いいたします。

変更・取消について
・変更・取消の場合は、必ずＦＡＸ・メールにて営業時間内にご連絡をお願いいたします。

## 【ご宿泊お申込みに際してのご注意】

・1名1室又は2名1室となります(2名1室希望の場合は同室の方のお名前を備考欄に記入ください)。
・お申込順に受付させていただきますが、各ホテル部屋数には限りがございます。
申込書に、必ず第2希望までご記入ください。ご希望のホテルが満室の場合には他のホテルをご案内させていただく場合もございます。予めご了承ください。
・各宿泊施設でのチェックイン手続きはお客様ご自身でおこなっていただきます。
・喫煙室／禁煙室についてのご希望はあくまでもリクエストとして承ります。
（宿泊施設の都合上、ご希望に添えない場合もございますので予めご了承ください。）

## 【宿泊のご案内】

宿泊の申込に際しては名鉄観光サービス㈱千葉支店と募集型旅行に申込みいただきます。下記また別紙の旅行条件となります。

■日程：2024年8月29日（木）～8月30日（金）　1泊2日
　　2024年8月30日（金）～8月31日（土）　1泊2日

■最少催行人員：1名
■添乗員：無し
■行程：　1日目　各自にてホテルにチェックイン
　　2日目　朝食後各自チェックアウト

■宿泊料金：お1人様1泊あたり【朝食付・サービス料・消費税込】

| ホテル名 | 部屋タイプ | 宿泊料金 | 申込記号 | 所要時間 |
|---|---|---|---|---|
| アパホテル＆リゾート東京ベイ幕張 | シングルルーム<br>1名様1室（部屋）利用 | 13,000円 | A-1 | 大会会場の向かいのホテル |
| | ツインルーム<br>2名様1室（部屋）利用 | 10,500円 | A-2 | |
| ホテルグリーンタワー幕張 | シングルルーム<br>1名様1室（部屋）利用 | 13,500円 | B-1 | 会場まで<br>徒歩約２分 |
| | ツインルーム<br>2名様1室（部屋）利用 | 10,500円 | B-2 | |
| ホテルフランクス | シングルルーム<br>1名様1室（部屋）利用 | 13,500円 | C | 会場まで<br>徒歩約２分 |
| ホテルスプリングス幕張 | シングルルーム<br>1名様1室（部屋）利用 | 14,000円 | D | 会場まで<br>徒歩約５分 |

## 【宿泊取消料】

宿泊日の前日から起算して（弊社営業時間内でのご連絡）

| 契約解除の日 | | 取消料（おＩ人様） |
|---|---|---|
| 旅行開始日の前日から起算してさかのぼって | １．２１日目にあたる日以前の解除 | 無料 |
| | ２．２０日目にあたる日以降の解除（３～６を除く） | 旅行代金の２０％ |
| | ３．７日目にあたる日以降の解除（４～６を除く） | 旅行代金の３０％ |
| | ４．旅行開始日の前日の解除 | 旅行代金の４０％ |
| | ５．旅行当日の解除（６を除く） | 旅行代金の５０％ |
| | ６．旅行開始後の解除または無連絡不参加 | 旅行代金のＩ００％ |

※上記の当該日数は,ご利用日の前日から起算した日数とさせて頂きます。
※変更及び取消等が生じた場合は、FAX･メールにて営業時間内にご連絡ください。
※営業時間外のご連絡は翌営業日の取扱いとなる旨、ご注意ください。
※宿泊のご変更･お取消に伴うご返金は、大会終了後、当該取消料と振込手数料を差し引き送金させていただきます。

## 【旅行条件の要約】

名鉄観光サービス株式会社は、お申込の際にご提出いただいた個人情報について、お客様との連絡や輸送･宿泊機関等の提供するサービスの手配及び受領のための手続きに利用させていただくほか、必要な範囲内で当該機関等及び手配代行者に提供いたします。それ以外の目的で、ご提供いただく個人情報は利用いたしません。

当社の個人情報の取扱に関する方針については、当社の店頭またはホームページにてご確認ください。

※詳しくは旅行条件書面をご覧ください。

### ご旅行条件(要約)

※この書面は、旅行業法第12条の4に定める旅行取引条件説明書面及び同法第12条の5に定める契約書面の一部になります。
※詳しい旅行条件は、右記のQRコードからご確認頂けます。当社ホームページから事前にご確認の上、お申し込みください。

この旅行は、名鉄観光サービス㈱(以下「当社」といいます)が旅行企画･実施するものであり、旅行に参加されるお客様は、当社と募集型企画旅行契約(以下「旅行契約」といいます)を締結することになります。旅行契約の内容･条件は、パンフレットまたは当社HP記載の旅行条件書、出発前にお渡しする確定書面(最終日程表)及び当社旅行業約款募集型企画旅行契約の部によります。当社旅行業約款をご希望の方は、当社にご請求ください。

●申込の方法と契約の時期
（1）旅行のお申込みは、所定の申込書にご記入の上、申込金を添えてお申込みください。当社が契約の締結を承諾し、申込金を受理した時に契約が成立します。
電話、郵便、FAX、インターネット等により予約いただく場合は、当社が予約を承諾する旨を通知した日の翌日から起算して3日以内に申込み手続きをお願いします。
（2） 申込金は、「お支払対象旅行代金」又は「取消料」、「違約料」の一部又は全部として取り扱います。
（3） 団体･グループを構成する旅行者の代表としての契約責任者から旅行申込みがあった場合、契約の締結及び解除等に関する一切の代理権を契約責任者が有しているとみなします。

●申込金･旅行代金のお支払い
（1）申込の際、お一人様につき以下の申込金をお支払いいただきます。
30,000円未満･････････････････････ 5,000円以上旅行代金まで
30,000円以上60,000円未満･････････10,000円以上旅行代金まで
60,000円以上･･････････････････････20,000円以上旅行代金まで
（2）残金は旅行開始日の前日からさかのぼって21日前にあたる日より前(お申し込みが間際の場合は当社が指定する期日まで)にお支払いください。

●旅行代金に含まれるもの
（1）本紙面の旅行日程に明示されている宿泊代、食事代および消費税等諸税。
※上記の諸費用は、お客様のご都合により一部利用されなくても原則返して払い戻しはいたしません。

●旅行代金に含まれないもの
（1）自宅から集合･解散場所までの交通費や宿泊費等。その他、追加飲食等の個人的性質の諸費用
（2）任意の旅行傷害保険料

●添乗員の有無
（1）同行いたしません

●取消料
（1）お客様はいつでも次による取消料をお支払いいただくことにより旅行契約を解除することができます。

| 解除期日 | 取消料(おひとり) |
|---|---|
| 旅行開始日の前日から起算してさかのぼって21日目にあたる以降8日目にあたる日まで | 旅行代金の20% |
| 旅行開始日の前日から起算してさかのぼって7日目にあたる日以降前々日にあたる日まで | 旅行代金の30% |
| 旅行開始日の前日 | 旅行代金の40% |
| 旅行開始日当日 | 旅行代金の50% |
| 無連絡不参加及び旅行開始後 | 旅行代金の100% |

●特別補償
お客様が募集型企画旅行参加中に急激かつ偶然な外来の事故によって身体または手荷物の上に被った一定の損害について、あらかじめ定める額の補償金及び見舞金を支払います。

●旅程保証
当社は当パンフレットに記載した契約内容のうち、当社旅行業約款(募集型企画旅行の部第29条別表左欄)に掲げる重要な変更が生じた場合は同条に定めるところによる変更補償金をお支払いいたします。

●基準日
この旅行代金は2024年2月1日現在の運賃･料金を基準としております。

個人情報の取り扱いについて ･･･個人情報の取り扱いについては、名鉄観光ホームページの「セキュリティに関するご案内」にてご確認ください https://www.mwt.co.jp/info/security.shtml

●お問い合わせ･お申込みは下記まで･･･

**名鉄観光サービス株式会社**
**千葉支店**

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見2-20-1 日本生命千葉ビル内
TEL:043-225-3731 FAX:043-225-3734
営業時間 平日9:30～17:30 土日･祝は定休

総合旅行業務取扱管理者 比留間 啓介

旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に関し、担当者からの説明にご不明の点があれば、ご遠慮なく上記の旅行業務取扱管理者にお尋ねください。

お客様担当者(外務員） 鈴木、沼、成田

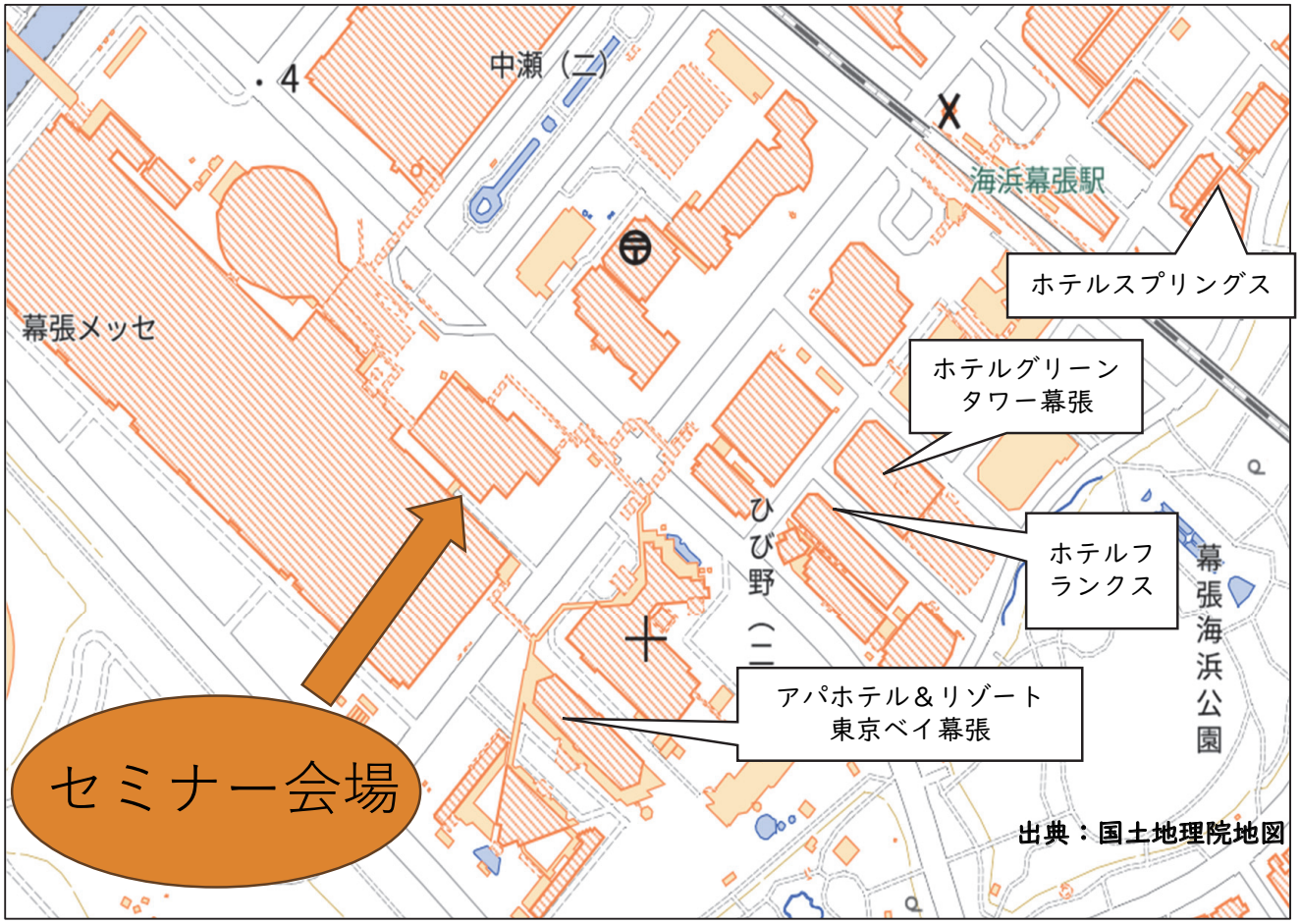
旅行企画･実施

名鉄観光サービス株式会社 千葉支店
〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見2-20-1 日本生命千葉ビル4階

旅行業公正取引協議会会員
一般社団法人 日本旅行業協会
観光庁長官登録旅行業第55号

# 大会会場および利用ホテル案内

## 海浜幕張エリア




JR海浜幕張はJR京葉線にて東京駅より約４０分です。
また幕張本郷駅はJR総武線（各駅）にて秋葉原より４５分、幕張本郷駅～海浜幕張駅は京成バスにて約１０分～１５分です。

## 【宿泊についてのお問い合わせ】

名鉄観光サービス㈱千葉支店
TEL:０４３－２２５－３７３１
FAX:０４３－２２５－３７３４
e-mail：chiba-welfare2024@mwt.co.jp
担当：鈴木、沼、成田

# 令和6年度全国保育士養成セミナー【宿泊申込書】

**FAX 043-225-3734**

**※申込締切日：令和6年7月26日（金）**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予約確認書等の送付先 | 都・道・府・県名 | 所属 | | 連絡担当者 | フリガナ |
| | 住所　〒 | | | 電話 | |
| | | | | FAX | |
| | | | | メールアドレス | |
| 当日の交通 | □ 公共交通機関　□ 自家用車　□ その他（　　） | | | | |

| No | フリガナ<br>参加者氏名 | 職位 | 性別 | 年齢 | 宿泊申込<br>宿泊日<br>【当日泊】8月29日（木） | 宿泊日<br>【後泊】8月30日（金） | 希望ホテル<br>第1希望 | 希望ホテル<br>第2希望 | 喫煙有無<br>※ご希望に○ | 備考<br>※宿泊でツインご希望の方は同室の方のお名前をご記入ください。 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 例 | チバ　ヨウコ<br>千葉　陽子 | 専任講師 | 女 | 40 | ○ | ○ | A－1 | B-1 | (禁煙)・喫煙 | |
| 1 | | | | | | | | | 禁煙・喫煙 | |
| 2 | | | | | | | | | 禁煙・喫煙 | |
| 3 | | | | | | | | | 禁煙・喫煙 | |
| 4 | | | | | | | | | 禁煙・喫煙 | |

**宿泊費等の返金が発生した場合のご返金振込先をお知らせください**

銀行　　支店　普通・当座　　口座番号

口座名義（カタカナ）

【問い合わせなど】

●名鉄観光サービス㈱千葉支店　千葉市中央区富士見2-20-1

TEL:043-225-3731　　FAX:043-225-3734

営業時間　土日祝日は休業、平日の9:30～12:00　13:00～17:00

【通信欄】

人数多く足りない場合はコピーしてご使用ください。

# 令和６年度全国保育士養成セミナー
# 運　営　組　織

## 運営組織委員会

（令和６年３月31日現在）

| No. | 担　当 | 氏　名 | 全国保育士養成協議会役職名 | 所属・職名等 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 組織委員長 | 汐見　稔幸 | 会長 | 白梅学園大学　名誉学長 |
| 2 | 委員 | 小川　清美 | 副会長 | 東京純心大学　特任教授 |
| 3 | 委員 | 安原　千香子 | 副会長 | 大阪保育福祉専門学校　学校長 |
| 4 | 委員 | 矢藤　誠慈郎 | 常務理事 | 和洋女子大学　学科長 |
| 5 | 委員 | 佐藤　貴虎 | 常任理事（北海道ブロック） | 旭川市立大学短期大学部　副学長 |
| 6 | 委員 | 渡辺　信英 | 常任理事（東北ブロック） | 郡山健康科学専門学校　学校長 |
| 7 | 委員 | 植草　和典 | 常任理事（関東ブロック） | 植草学園大学・植草学園短期大学　理事長 |
| 8 | 委員 | 新井　美保子 | 常任理事（中部ブロック） | 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学　副学長 |
| 9 | 委員 | 流石　智子 | 常任理事（近畿ブロック） | 京都華頂大学・華頂短期大学　副学長 |
| 10 | 委員 | 松本　典子 | 常任理事（中・四国ブロック） | 鳥取短期大学　学長 |
| 11 | 委員 | 福元　裕二 | 常任理事（九州ブロック） | 西九州大学・西九州大学短期大学部　理事長・学長 |

## 企画委員会

| No. | 担　当 | 氏　名 | 所　属 | 職名等 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 大会長 | 植草　和典 | 植草学園大学・植草学園短期大学 | 理事長 |
| 2 | 実行委員長 | 西山　薫 | 清泉女学院短期大学 | 副学長・学科長・教授 |
| 3 | 副実行委員長 | 宮川　三平 | 聖徳大学 | 保健センター長・教授 |
| 4 | 企画委員 | 吉田　眞理 | 小田原短期大学 | 学長・教授 |
| 5 | 企画委員 | 今村　雅彦 | 聖ヶ丘保育専門学校 | 学校長 |
| 6 | 企画委員 | 安藤　みゆき | 茨城女子短期大学 | 教授 |
| 7 | 企画委員 | 青野　光子 | 新潟青陵大学短期大学部 | 教授 |
| 8 | 企画委員 | 松川　秀夫 | 明星大学 | 教授 |
| 9 | 企画委員 | 松山　洋平 | 和泉短期大学 | 入試・広報部長　教授 |
| 10 | 企画委員 | 池田　りな | 大妻女子大学 | 教授 |
| 11 | 企画委員 | 千葉　千恵美 | 高崎健康福祉大学 | 教授 |
| 12 | 企画委員 | 岡　健 | 大妻女子大学 | 教授 |
| 13 | 企画委員 | 小原　敏郎 | 共立女子大学 | 教授 |

## 実行委員会

| No. | 担　当 | 氏　名 | 所　属 | 職名等 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 実行委員 | 鈴木　彬子 | 東京家政大学 | 専任講師 |
| 2 | 実行委員 | 勝山　幸 | 東京家政学院大学 | 非常勤講師 |
| 3 | 実行委員 | 石丸　るみ | 大阪総合保育大学 | 准教授 |
| 4 | 実行委員 | 大久保　麻彩 | 東京家政大学 | 助教 |
| 5 | 実行委員 | 金子　日菜乃 | 東京家政大学 | 助教 |
| 6 | 実行委員 | 佐野　美奈 | 常葉大学 | 教授 |
| 7 | 実行委員 | 村上　康子 | 共立女子大学 | 教授 |
| 8 | 実行委員 | 吉永　早苗 | 東京家政学院大学 | 教授 |
| 9 | 実行委員 | 加藤　明代 | 常葉大学短期大学部 | 准教授 |
| 10 | 実行委員 | 平野　浩由 | 常葉大学 | 専任講師 |
| 11 | 実行委員 | 遠藤　純子 | 昭和女子大学 | 准教授 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12 | 実　行　委　員 | 小野　友紀 | 大妻女子大学短期大学部 | 准教授 |
| 13 | 実　行　委　員 | 鈴木　八朗 | 社会福祉法人　久良岐母子福祉会　くらき永田保育園 | 園長 |
| 14 | 実　行　委　員 | 松浦　美奈 | こども教育宝仙大学 | 専任講師 |
| 15 | 実　行　委　員 | 星野　薫 | 目白大学 | 非常勤講師 |
| 16 | 実　行　委　員 | 利根川　智子 | 東京未来大学 | 准教授 |
| 17 | 実　行　委　員 | 矢藤　誠慈郎 | 和洋女子大学 | 学科長　教授 |
| 18 | 実　行　委　員 | 木戸　啓子 | 倉敷市立短期大学 | 教授 |
| 19 | 実　行　委　員 | 髙木　友子 | 湘北短期大学 | 教授 |
| 20 | 実　行　委　員 | 福田　真奈 | 関東学院大学 | 准教授 |
| 21 | 実　行　委　員 | 吉田　収 | 小田原短期大学 | 学科長　教授 |
| 22 | 実　行　委　員 | 有村　さやか | 小田原短期大学 | 教授 |
| 23 | 実　行　委　員 | 永岡　和香子 | 浜松学院大学短期大学部 | 教授 |
| 24 | 実　行　委　員 | 捧　公二朗 | こども教育宝仙大学 | 図書館長　教授 |
| 25 | 実　行　委　員 | 中山　貴太 | 小田原短期大学 | 専任講師 |
| 26 | 実　行　委　員 | 澤田　優子 | 小田原短期大学 | 専任講師 |
| 27 | 実　行　委　員 | 前嶋　元 | 東京立正短期大学 | 教授 |
| 28 | 実　行　委　員 | 服部　伸一 | 関西福祉大学 | 教授 |
| 29 | 実　行　委　員 | 友永　粧子 | 成田国際福祉専門学校 | 校長 |
| 30 | 実　行　委　員 | 澁谷　美枝子 | 東京立正短期大学 | 教授 |
| 31 | 実　行　委　員 | 鈴木　優梨亜 | 東京立正短期大学 | カウンセラー |
| 32 | 実　行　委　員 | 小川　晶 | 植草学園大学 | 准教授 |
| 33 | 実　行　委　員 | 鈴木　真紀 | 千葉県立安房特別支援学校　館山聾分校 | 教員 |
| 34 | 実　行　委　員 | 増川　智美 | 社会福祉法人つくし会　馬橋保育園 | 園長 |
| 35 | 実　行　委　員 | 金子　功一 | 植草学園大学 | 准教授 |
| 36 | 実　行　委　員 | 畑山　未央 | 植草学園大学 | 助教 |
| 37 | 実　行　委　員 | 野田　敦史 | 高崎健康福祉大学 | 准教授 |
| 38 | 実　行　委　員 | 小俣　みどり | NPO法人　子育てネットワーク・ピッコロ | 理事長 |
| 39 | 実　行　委　員 | 倉石　哲也 | 武庫川女子大学 | 教授 |
| 40 | 実　行　委　員 | 富田　純喜 | 高崎健康福祉大学 | 准教授 |
| 41 | 実　行　委　員 | 中嶋　一郎 | 千葉明徳短期大学 | 准教授 |
| 42 | 実　行　委　員 | 林　康成 | 山梨県立大学 | 専任講師 |
| 43 | 実　行　委　員 | 請川　滋大 | 日本女子大学 | 教授 |
| 44 | 実　行　委　員 | 佐藤　栄作 | 社会福祉法人秀愛福祉会 幼保連携型認定こども園 | 事務長 |
| 45 | 実　行　委　員 | 池田　充裕 | 山梨県立大学 | 教授 |
| 46 | 実　行　委　員 | 高野　牧子 | 山梨県立大学 | 教授 |
| 47 | 実　行　委　員 | 伊藤　理絵 | 常葉大学 | 准教授 |
| 48 | 実　行　委　員 | 甲賀　崇史 | 常葉大学 | 専任講師 |
| 49 | 実　行　委　員 | 美尾　向咲 | 常葉大学保育学部4年生（2024年4月より　保育教諭） | |
| 50 | 実　行　委　員 | 水落　洋志 | 兵庫教育大学大学院 | 専任講師 |
| 51 | 実　行　委　員 | 富田　エミ | 常葉大学 | 助教 |
| 52 | 実　行　委　員 | 石田　淳也 | 常葉大学 | 助教 |
| 53 | 実　行　委　員 | 岡本　尚志 | 聖徳大学 | 准教授 |
| 54 | 実　行　委　員 | 奥村　典子 | 聖徳大学 | 教授 |
| 55 | 実　行　委　員 | 柴田　亮 | AIAI NURSERY 第二東池袋 | 施設長 |
| 56 | 実　行　委　員 | 菊地　一晴 | 聖徳大学 | 専任講師 |
| 57 | 実　行　委　員 | 上田　智子 | 聖徳大学 | 専任講師 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 58 | 実　行　委　員 | 田 中　卓 也 | 育英大学 | 教授 |
| 59 | 実　行　委　員 | 渡 辺　一 洋 | 育英大学 | 准教授 |
| 60 | 実　行　委　員 | 小 島　千 恵 子 | あいち保育研修研究協議会 | 事務局長 |
| 61 | 実　行　委　員 | 白 井　祐 子 | 学校法人長生学園しらゆりこども園 | 園長 |
| 62 | 実　行　委　員 | 田 中　浩 之 | 群馬医療福祉大学 | 教授 |
| 63 | 実　行　委　員 | 田　中　路 | 東京純心大学 | 専任講師 |
| 64 | 実　行　委　員 | 栗 原　ひ と み | 植草学園大学 | 教授 |
| 65 | 実　行　委　員 | 高 木　夏 奈 子 | 植草学園大学 | 教授 |
| 66 | 実　行　委　員 | 實 川　慎 子 | 植草学園大学 | 教授 |
| 67 | 実　行　委　員 | 北 田　沙 也 加 | 植草学園大学 | 講師 |
| 68 | 実　行　委　員 | 鈴 木　瑛 貴 | 植草学園大学 | 講師 |
| 69 | 実　行　委　員 | 松 原　敬 子 | 植草学園短期大学 | 教授 |
| 70 | 実　行　委　員 | 堀　彰 人 | 植草学園短期大学 | 教授 |
| 71 | 実　行　委　員 | 佐 藤　愼 二 | 植草学園短期大学 | 教授 |
| 72 | 実　行　委　員 | 植 草　一 世 | 植草学園短期大学 | 教授 |
| 73 | 実　行　委　員 | 園　川　緑 | 植草学園短期大学 | 教授 |
| 74 | 実　行　委　員 | 久 留 島　太 郎 | 植草学園短期大学 | 教授 |
| 75 | 実　行　委　員 | 根 本　曜 子 | 植草学園短期大学 | 准教授 |
| 76 | 実　行　委　員 | 田 村　光 子 | 植草学園短期大学 | 准教授 |
| 77 | 実　行　委　員 | 宮　尾　孝 | 植草学園 | 学園・大学事務局長 |
| 78 | 実　行　委　員 | 相 内　絵 美 | 植草学園 | 健康管理室 |
| 79 | 実　行　委　員 | 田 中　千 登 勢 | 植草学園 | 健康管理室 |
| 80 | 実　行　委　員 | 松 本　和 江 | 関東ブロック協議会事務局 | |

一般社団法人

全国保育士養成協議会

〒171－8536　東京都豊島区高田3-19-10
電　話　０３－３５９０－５５５１（総務課）
ＦＡＸ　０３－３５９０－５５９１
E-mail　soumu@hoyokyo.or.jp